



平成30年7月21日(土)

# 藤 棚

第356号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>  
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

## 災害から身を守る

校長 小川義男

私自身、水害に遭った事がある。夜、映画を見て、バイクで帰宅したら、家の周りが水で一杯なのである。辛うじて、川と反対側の窓から中に入ることができた。中に水は入っていないが、どうも玄関の様子が怪しい。土間である。つまり、土地そのものが玄関の床なのだ。床下から激しい水の音が聞こえる。棒を突き刺してみると、土間は容易く崩れた。座敷そのものの床は大丈夫らしい。棒でつつき、崩れるだけ崩した後は、玄関に濁流が渦巻いている。夜の十時頃であった。掘っ立て小屋だから、ご近所との付き合いもない。家賃千円だから、それはもう、当時としても、例えようもなく粗末な家である。

でも、今振り返っても、そこで過ごした日々が、今までで一番楽しかったと思えるのだから、人間の幸福感とは不思議なものである。

鉄砲水が来るかも知れない。厚手のビニールカップを着て、家近くの空き地に林檎箱を置き、腰掛けて、朝までそこで過ごした。26歳、一番元気な盛りだが、本当に怖かった。

この度の広島県周辺の水害は、大変なものだったらしい。水だけでも恐ろしいのに、山が崩れてくると言うのだから、その恐怖は、人間の認識を超える程のものだっただろう。亡くなった方も沢山いる。慰めの言葉もない。

自衛隊、警察官、消防士、消防団、自治体関係の方々は、本当に捨て身のご努力を重ねて下さった。心から尊敬の真心をお届けしたい。

高校生諸君、中学生諸君も、間もなく大人になり家族を抱える。親は子供に対し、夫は妻に対して、絶対的な保護責任を負う。家族に老人を抱える場合は、その保護責任も重い。家長として、母として、保護責任を負う時代は、直ぐにやってくる。賢くならねばならぬ。強くならねばならぬ。

私は、生徒諸君に対しては、住居を設定する上で、極力、安全な場所を選ぶことをお勧めしたい。難しいことだが、ハザードマップなども参考にして、安全な場所を選定することが極めて大切だ。

近来は、異常気候が続く。本校施設部長の上岡さんが言っていたが、土中の温度が高すぎて、ジャガイモが育ちにくいそうである。散水しようとしても、水道の温度が高すぎて植物の生育の

妨げになるという。地球温暖化は、大気汚染の問題だけではなく、宇宙的なスケールで進んでいるのかも知れない。

昔の石原知事が、大気汚染を防ごうとして、大変な努力をなされた。今の東京の空がこんなに美しいのは、その努力の賜だと私は思う。

しかし地球には、大気汚染と関係なく、氷河時代があったし、石炭紀のように熱帯気候の時代もあった。大局的には、地球は、ゆっくりと氷河時代に向かっていると聞く。諸君の中から、当然、地球物理学者や宇宙科学の専門家も出るだろう。このあたりを研究して貰いたいし、教えて貰いたい。

とにかく、最近の暑さは異常である。

先日の高校野球、対聖望戦で、私も出かけた。吹奏楽部の生徒が一人、熱中症で倒れた。幸い体力を回復してくれたが、当たり前の暑さではない。

見ていて、私も健康に自信がなくなった。私が熱中症で運ばれたらニュースになってしまう。私は、一時、日陰に退避したが、とにかく並大抵の暑さではない。

最初、勝っていたのだが、最終的には負けた。こちらの四番がバッターボックスに立っても、敵は後ろに退かない。悔しかった。どんな手段を尽くしても、この近隣の名門を倒さなくてはならぬ。高校は、学問だけではない。

ともあれ、そんな暑さだ。

広島地域の災害では、電気も止まっているケースがある。エアコンが使えぬ中で、現地の人々は、どんなに苦勞なさっているだろう。断水地域もある。

頼もしいのは、自治体、自衛隊、警察の皆さんが、命がけの救援活動をして下さっていることである。ボランティアの皆さんも、寝るところさえ充分でない所に、支援に駆けつけて下さっている。日本は、やっぱり、世界一の国だなあと、しみじみ思う。

それだけに、中、高校生諸君、大人になったときには、家族と地域を守り通すことのできる知恵と力を身につけて貰いたい。

災害は、水害だけではない。地震もあれば火山の噴火もある。

富士山の噴火は、過去の歴史に照らしても、その危険を否定することはできない。大地震の可能性もある。

関東が大災害に見舞われたとき、これを支援できる勢力は、我が国にないかも知れない。それだけに、災害への備えを万全におこななければならない。年寄りも弱い。君らは強い。君らの肩には、全家族を支え導く責任がのしかかってくる。明日の困難に向け知力と体力を鍛えて欲しい。

ところで待望の夏休みだ。しかし休みは、高校生、中学生にとっては、明日への飛躍の季節だとも言える。夏をエンジョイすると共に、学問、読書にも精励して欲しい。

夏の安全は特に重要である。ネット等で愚かな人間、危険な人間に近づかぬ事は、生徒としての最低の心得である。

特に海には、自然の危険、人間による危険が一杯だ。海には離岸流もある。命を失うことのないよう、くれぐれも注意して貰いたい。

中学三年生には、修学旅行も近づいている。北海道の美しさ、北大の美しさ、盛んなりし小樽の、着実な人口減少などを深く見つめ、明日の指導者としての見識を身につけて貰いたい。高校三年生は決戦の季節だ。夏を戦う者にこそ、笑顔の春は訪れる。

諸君、秋風吹き始める頃、元気に再会しよう。